

VI-16 一般国道112号「道の駅」について

建設省東北地方建設局酒田工事事務所 三浦 信夫
〇秋 山 喜久男

1. はじめに

「道の駅」は、一般道路の休憩施設と市町村の整備する地域振興施設とを一体的に整備するもので、平成5年度からスタートする第11次道路整備五箇年計画のひとつの柱として積極的に取り組むこととなっている。

一般国道112号（月山道路）の利用についても、余暇時間の増大等を背景としたレジャー交通等の増加とともに長距離トリップが増大、女性や高齢者ドライバーが増加していくものと考えられる。

これらを背景として、地域の歴史・文化・風景・特産品といった地域情報の提供の場である『月山あさひ博物村』の中に道路情報提供施設（月山道路情報サブターミナル）を併設し、「道の駅」を先取りして施設を開設したのでその概要を報告するものである。

2. 一般国道112号-月山道路-について

一般国道112号は、県都山形市を起点として鶴岡市に至る100kmの

路線で、この内、西川町砂子関から朝日村大網までの30.9kmを通称月山道路と呼び16年の歳月と460億円の事業費をかけ昭和56年7月に開通した山岳道路で、景勝地（磐梯朝日国立公園）を通る素晴らしい景観から「月山花笠ライン」と名付けられ「日本の道100選」にも選ばれている。しかし冬期の自然条件は甚だ厳しく、5mを越える積雪の他、地吹雪など「雪の克服」が最大の課題となっている。

3. 月山道路情報提供施設について

(1) 施設概要

①月山道路情報ターミナル

近年の価値観の多様化も相まって多様のニーズが混在し、更には「情報化時代」の到来と言われるよう、情報の即時性・確実性といったものがドライバーからも要求されるようになってきた。

そういった中、適切な道路情報の提供はドライバーのニーズに答えるだけでなく、適切な道路利用につながり、更に休憩施設としての機能を付加することによって交通事故防止の面でも有効と考えられ、道路管理上からも必要性が高いという認識のもとに道路情報ターミナルの設置が必要となり、平成3年11月に櫛引町板井川に開設した。施設概要を述べると下記のとおりである。

マルチモニター	21型モニターテレビを縦横3台、合計9台並べて17箇所の画像を提供して、気象、路面、交通状況を動画（カラー）で視聴できる。
インフォメーションボード	LEDによる電光情報版で、気象、路面状況等の情報を数値あるいは語句で事故を確認する施設。
ルートマップ	山形県内の国道網を、主要観光地等を含めて案内するもので、経路案内の他、道案内としての機能をもつ
道路情報ラ디오	電話応答装置・路側放送の提供文を直接スピーカーから放送できる。
道路情報掲示板	通行規制のチラシ、広報ポスターを掲示
休憩施設	ノファーム、トイレ、清涼飲料水及び煙草の自動販売機を室内に、屋外には公衆電話ボックスを設置

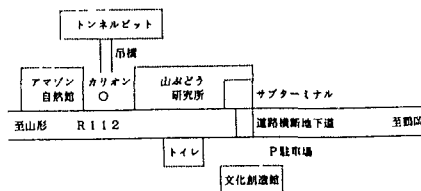
参考までに月山道路情報ターミナルの利用状況を示すと下図のとおりである。

利用者数	合計	情報収集	トイレ利用	見学	休憩	その他	
昼夜合計	37,500 (100)	6,495(17)	10,199(27)	4,286(12)	6,658 (18)	9,863 (26)	(H4.1.1 -12.31)

②月山道路情報サブターミナル・月山あさひ博物村

通行の安全を高める意味で開設した、上記の月山道路情報ターミナルの利用状況は好評であるが、もっと多くの人達に道路状況を提供する意味で、年間利用者が約25万人もある「月山あさ

ひ博物村」にサブターミナルを開設すること
が「道の駅」構想にも合致するものと判断し、
平成4年11月に開設したもので、概要を示
すと図のとおりである。

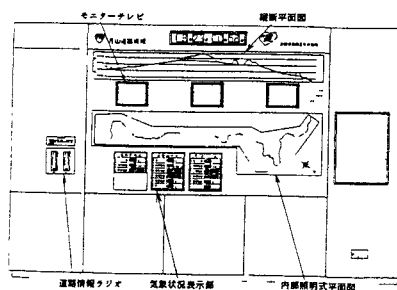
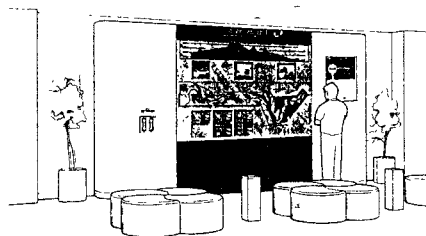


月山あさひ博物村	月山道路情報サブターミナル
(アマゾン自然館) アマゾン研究家である山口吉彦氏が集めた資料約1万2千点が展示された博物館。 (文化創造館) 名著名村氏で芥川賞作家の森敦氏の遺品や原稿、日曜会の絵画・彫刻など多彩ジャンルを展示している。 (山ふどう研究所) 特産の山ふどうを原料にした「月山ワイン」を始めとした加工製品の研究・試作・加工・展示販売の機能を備えた施設。 (トンネルビット) 旧国道のトンネルをそのまま生かしたイベントゾーンでレストランでの食事も可能。 (駐車場) 小型90・大型5・マイクロ8台収容の駐車場。 (その他) 屋外トイレ・ノンボル橋・カリオン・吊橋	(モニターテレビ) 約25km区間に16箇所のモニターカメラを3台のテレビ(15インチ)でリアルタイムで月山道路の状況を知ることができる。 (縦断平面図) 最大標高734mに至るトンネル関係と緩い縦断勾配を示した縦断図の掲示。 (内部照明式平面図) 3台のモニターテレビで画像提供している箇所をランプ点灯で表示する他、主要な地名・施設を内部照明式の平面図で提供。 (気象状況表示装置) 月山道路を3ブロックに分割して、その代表地点の状況を数字・文字で知ることができる。(気温・時間雨量・降雪強度・路面状況・路面温度・視程) (道路情報ラジオ) 月山道路情報を2台の受話器で傍聴できる。

(2) 利用状況

「月山あさひ博物村」は地形的な制約から利用者を受け入れる駐車場が国道を挟んで反対側となっているため、歩行者の道路横断が必要となり特に冬期の利用者にとっては道路両側の雪堤が高くなることにより視認性の低下、吹雪のなかの道路横断は利用形態上・交通安全上問題となることから、地下横断歩道を設置した。

情報の提供時間帯は、「月山あさひ博物村」の開館時間中(9時～17時)だけであるが、施設利用者の経路に当たるためほぼ全員が道路状況・気象状況を把握して対応処置を判断しており、安全運転の一助を果している。



4. 今後の整備方針

今後の月山道路「道の駅」を考えると、利用者の増大が予想される事に伴い、利用形態及び情報へのニーズの多様化が予想され、これに対応すべく情報提供機器の整備が切望される。(ビデオテックス等)

しかし、個々のニーズに答えることが可能になる反面、利用者の操作性・対応時間の短縮・メニュー内容の検討などニーズを十分把握し、情報内容を吟味する必要がある。

又、道路情報提供施設としてのサブターミナルのサービスレベルの基準を何処に定めるのかの検討が重要であると思われる。

5. 最後に

ゆとりと豊かさを求める国民のニーズに対応し、沿道と連携しつつ、道路の「たまり」機能の充実を図るための「112号月山道路道の駅」を紹介したが、自然豊かな溪谷(梵字川)と調和のとれた開発、環境整備の在り方について、朝日村・酒田工事事務所・月山ダム工事事務所が互に密接な連携をとりつつ、梵字川周辺にかかる大型プロジェクト事業と朝日村活性化対策事業の整合と円滑なる推進を図るため「梵字川溪谷周辺環境整備懇談会」を平成4年3月結成し、「文化と歴史を生かす道づくり」を進めていくこととしている。